

平成 2 8 年度

第 3 回総合教育会議会議録

とき 平成 2 8 年 1 2 月 2 0 日

品 川 区

平成28年度第3回総合教育会議

○総務部長

それでは、定刻になりましたので、平成28年度第3回品川区総合教育会議を始めさせていただきます。

本日は傍聴の方が、今現在、1名おられますので、お知らせします。

なお、本日の会議におきましては、記録用にカメラ撮影をさせていただきますが、傍聴の方の顔は撮影しないように配慮しますので、ご了承ください。

まず、開会にあたりまして、濱野品川区長よりご挨拶をいただきます。よろしく願いいたします。

○濱野区長

皆様、年末のご多用のところ、総合教育会議ということでご参集を賜りまして、大変ありがとうございます。子どもたちが健やかに育つように、学校教育の中で、あるいは社会教育、今は社会教育と申しませんけれども、そうした中で、いかに健やかに、そして健全で力強く育つことができるかということが問われているわけでありまして、そういう意味でこの総合教育会議、重要な役割を果たしていると考えております。

会を重ねて今年度3回目になりましたので、皆様方、この進行については十分熟知をしていただいていると考えておりますので、どうぞ積極的に発言をしていただきまして、会が円滑に進みますよう、ご配慮いただきますようお願い申し上げます。

甚だ簡単でありますけれども、開会にあたり、挨拶にかえさせていただきます。どうぞよろしく願いいたします。

○総務部長

ありがとうございました。

次に、教育委員会よりご挨拶をいただきますが、まず最初に教育委員会委員に7月21日付で海沼マリ子様のご就任されましたので、ご紹介いたします。ご挨拶、よろしく願いいたします。

○海沼委員

7月21日に区長様より任命をいただきました海沼です。よろしく願いいたします。

今まで町会、地域で活動させていただいておりますので、今後ともそのように、またいろいろな目で見たいと思いますので、今後ともよろしく願いいたします。

○総務部長

ありがとうございました。

それでは、教育委員会を代表して、菅谷教育委員長よりご挨拶申し上げます。よろしく願いいたします。

○菅谷委員長

第3回の総合教育会議ということで、区長様を筆頭にして会議できることを、

大変うれしく思っております。日々、教育というのは子どものことを考えておりますので、さまざまな意見があったなという感じ等もいたします。早いもので、本当に、平成28年もあと一月もないということで、終わりまで来ております。今後とも、教育に関するさまざまな問題について、区長さんの膝のもとで協議できることはすごくうれしく思っております。今後ともよろしく願いいたします。

簡単ですが、ご挨拶にかえさせていただきます。

○総務部長

ありがとうございました。

それでは、議事に入りたいと思いますが、ここからは濱野区長を座長に会を進行させていただきますので、濱野区長、どうぞよろしく願いいたします。

○濱野区長

それでは、私が議事の進行を務めさせていただきますので、よろしく願い申し上げます。

早速ですが、議題に入らせていただきます。議題の（１）教育委員会からの協議・報告事項につきまして、そのうちの①協議の１、子供たちの目指すべき姿（品川区の目指す児童・生徒像）につきまして、教育委員会から説明を願います。

○指導課長

それでは、子供たちの目指すべき姿（品川区の目指す児童・生徒像）について、ご協議いただきたいと思います。

いよいよ本年度末になりますけれども、国の学習指導要領が改訂されます。それに伴い、次年度末、平成29年度末の策定を目指しまして、品川区立学校教育要領の作成作業に入っていきたいと考えております。今後、品川教育検討委員会で検討の上、具体的には教科等検討委員会においてそれぞれの教科の検討に入っていくわけなんですけれども、それに伴いまして、品川区立学校教育要領の策定に当たり、まず品川教育ルネサンス～For Next Generation～を踏まえ、品川教育、9年間で目指す新たな児童・生徒像、これを踏まえて教育要領の改訂を行っていくことが重要であると思っております。

まず、資料1をごらんください。品川区教育委員会の教育目標及び教育方針、基本方針でございますけれども、こちらにつきましては、平成25年11月26日に教育委員会で決定しまして、28年4月1日、今年、義務教育学校設立に伴い文言修正したものでございます。この教育目標と書かれたすぐ下の2行、このリード文でございますけれども、こちらに本区の子どもたちの目指すべき姿といったものが書かれていると思います。

具体的に言いますと、「心身ともに健康で知性と感性に富み」とありますが、富んだ人、そして、「人間性豊かに成長し」とありますので、人間性豊かな人、そして、希望に満ち自分の未来を切り開いていけるようでありますので、希望に満ち自分の未来を切り開いていける人、こういった子どもたちの姿を品川区

では育てていきたいということで、現行の教育目標では定められているところ
であります。

裏面をごらんいただければと思います。参考資料ということでつけさせてい
ただきました、「東京都教育施策大綱骨子」の概要ということで、28年11月
8日に公表され、11月30日までにパブリックコメントを募集し、間もなく
新しい東京都の教育施策大綱が決められるというふうに伺っていますけれど、
その一番上のところに、「東京都の将来像と子どもたちの目指すべき姿」とあり
まして、ダイヤの上から2つ目、「グローバル化の進展の中でたくましく生き抜
く人間」、3つ目になりますが、「共生社会の中で多様性を尊重し積極的に社会
的役割を果たす自立した人間」ということで、子供たちの目指すべき姿が記さ
れております。

品川区において、品川区の特性、品川区の地域性といったこともあります。
品川区の子どもたちの様子やそういったことも加味しながら、これからの社会
に生きる品川区の児童・生徒に求められる力、また姿は、一体どういう子ども
たちを品川区の教育の中で育てていけばよいのか、そういったことにつきまし
て、これからスタートしていくところでもありますので、ぜひそういった子ども
たちに求められる姿、力、そういったものにつきましてご意見を頂戴したいと
思います。

どうぞよろしくお願ひいたします。

○濱野区長

ただいま説明がありましたことにつきまして、ご意見がありましたらお願ひ
いたしたいと思っています。いかがでしょうか。

どうぞよろしくお願ひします。

○菅谷委員長

一番最初に言うのはなかなか難しいのですけれども、一番気になるところを
申し上げたいと思います。品川区の教育目標でございますので、品川区の子ど
もの現状、地域の現状ということを深く考えていきたいと思っています。

現在の教育目標の中のリード文も、書いてあることは全てそのとおりで思
うんです。ただ、ちょっとやはり弱さというんですか、これからの新しい時代
の中で生きていく強さというんですか、子どもにとってそれが必要じゃないか
なと思います。ただ、力で言う強い、弱いではなくて、全て自分の中で解決で
きる、そういうすばらしい力を人間というのは、本来、持っているんじゃない
かなと思います。やはり子どもというのは、そういうことに対して非常に強さ
を持っておりますので、そのたくましさというんでしょうか、そういうものを
鍛えてあげたいなと思っています。

叱咤激励するという面ではなくて、自分で全てのことがわかっていながら、
やはり乗り越えていくような、そういう気概というんですか、精神的なビジョ
ンというのをちょっとつくっていく必要は私はあるんじゃないかなと思ってお
ります。そのためにはいろいろなことがあると思いますけれども、まずやはり
負けない、困難に負けない、自分に負けない自分というのは、やはり人間とし

て非常に大事なことじゃないかなというふうに私はいつも思っております。

簡単ですが、自分が育てる子ども、こういう子どもにしたいなという現実を見たときに、そういうものが必要かなと思っております。

以上でございます。

○濱野区長

ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。お願いします。

○富尾委員

一人一人の子どもということもそうなのですが、集団としての子供たちということを私はちょっと考えてみたんですけども、いろいろな多様な環境で育ったり、個性もあり、もともと障害や病気などを持つさまざまな子どもたちがいるわけなのですが、そういった子どもたちがお互いを尊重し合って、認め合って、手を差し伸べ合うことができるような子どもたち、そして、それぞれの個性の可能性とか、そういったことを可能な限り、能力などを伸ばすために、社会全体として支え合えたらいいと思いますし、そういうことを子どもたちみずからが選択していけるような姿がいいんじゃないかなというふうに思います。

○濱野区長

ありがとうございます。

ほかに、どうぞよろしくお願いします。

○海沼委員

品川という地域の特性もあると思うんですけども、地域の一員として、子どもたちが地域社会に貢献できる、そういう子どもたちになっていただきたいなと思うことと、また、やはり社会的な役割を果たせる大人といいますか、ボランティア活動にも積極的に出ていくような子どもたちに育ってほしいなと思います。

○濱野区長

ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。お願いします。

○鈴木委員長職務代理者

例えばいじめがあった場合に、被害者の気持ちを理解できるような優しい心を育てたい。それから、さらに、そのいじめられた子を守り抜くという、今度は強い気持ち、心を持った、優しさと強さを持った子どもたちになってほしいなと思っています。

○濱野区長

ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。教育長。

○中島教育長

やはり委員の皆様のお話を伺っていると、この不透明な時代の中で、強さというような部分をしっかり秘めた人間になってもらいたいというような感じが伝わってまいりました。

私は、さまざまな学校にかかわっておりますと、それを基礎的につくるのは、昔から言われているところの家庭であり、そして、食育や健康も含め、知力体が三拍子そろっていて、バランスがとれているというんでしょうか、そういった子どもたちを育成することが非常に重要になってくるのだと思います。

と申しますのは、品川はやはり非常に都市型の環境にありますので、運動する場所も広くあるわけではないし、狭いところに人が多くいる中で、さまざまな人間関係のストレスが多い場所だろうと思うんです。そういったところでも生き抜いていくためには、今、言った3つのバランスをうまく保ちながら育てていく。また、そういうことができる子どもになってもらいたい、そんなようなところを強く感じております。

○濱野区長

それぞれの委員の方からお話いただきました。皆様がおっしゃっていることはほんともっともだと思いますし、子どもの多様性を認めて、多様な子どもたちのそれぞれのよさを引き上げて伸ばしていくという教育も重要な目標であると思います。あるいは、優しさとか強さというものも、子どもの持っているそういう天然力みたいなものをいかにそぐことなく伸ばしていくかというのも、やはり教育の重要な問題ではないかなと思います。

先ほど教育目標のほうでちょっと触れていただきましたけれども、このリード文に書いてあることというのは非常に凝縮されたことで、言ってみれば知徳体のことになるんじゃないかと思います。一人一人の子どもが生きていく上で必要なこと、これは知徳体であるし、また社会に参加をしていく、自分が生き抜くという意味で必要なことであるし、また社会に参画して、その社会に対して作用するという意味でも、この知徳体というのは非常に重要なことではないかと思います。

これを具体的に教育の場でどういうふうにそれを伸ばしていくのか、私、専門家じゃないのでよくわかりませんが、やはり教育の目標というのは、このリード文に書かれている心身ともに健康で知性と感性に富む、あるいは人間性豊かに成長する、あるいは未来を切り開いていく力、こういうものに集約されるのかなというふうに思います。

ぜひ、教育委員会としても、こうした教育目標を具体的に実現していくような努力をこれからも続けさせていただきたいというふうに思いますけれども、追加して何かご発言がある方、よろしく願いをいたします。

○中島教育長

そういった総合的な子どもの見方と同時に、これからのグローバル化社会での国際的な視野というのは、やはり品川区の子どもたちには強く持ってほしい。協働社会など数を上げれば切りがないんですが、その中でもやはり品川の子供たちには、オリンピック・パラリンピックが来るということもあって、そういったグローバルな視点をぜひ身につけてもらいたいということを強く思います。

○濱野区長

江戸幕府の末期に、今の浜川中学ですけれども、あそこは土佐藩の下屋敷で、坂本龍馬があそこに駐在をして、台場の建設をしながら過ごしているときに黒船がやってきて、土佐の一藩士であった坂本龍馬が日本の国士になるというんですか、日本を切り開いていくような人物になったという意味で、品川の特性というのは、やはり海に開かれて国際都市東京の表玄関に位置しているということだと思いますので、そこに育つ子どもが、やはり品川らしさということで、グローバルな面を兼ね備え、2020のオリンピックもございますので、そういう意味で、外国の人たちとつき合えるというところまでいかないと思いますけれども、積極的に触れ合うことができるような子ども、そういうことを学校のほうでも気を使って育てていただければと思います。

よろしくお願ひしたいと思ひます。

今、2020の話をしてしまいましたが、今の件で何か追加してありましたら、子どもの教育目標についてと伺いますか。もしなければ、今、ちょっと触れましたけれども、2020にオリンピック・パラリンピックが開かれるわけですが、こういった面について教育をして、どういう教育が可能かということについて、お考えがありましたら、教育委員会から説明をお願いしたいと思います。

○指導課長

やはり今、お話をいただいた中で、次の議題にもかかわってくるところでありますけれども、やはりオリンピック・パラリンピックは一生のうち二度とないかけがえのない機会になってくると思います。そういった機会を子どもたちにとってレガシーとなるよう、そういった機会を契機として、知徳体のバランスのとれた子どもたちの育成ということを考えていきたいと思っています。

それを踏まえて、今、たくさんご意見をいただきましたので、子どもたちのこういうふうにあってほしいという姿、そして資質、そういったものを育てていきたいというふうにご考えております。

以上でございます。

○濱野区長

ありがとうございます。

教育目標のところにも、3番目のところに2020東京オリンピック・パラリンピックについての言及がありますけれども、コミュニケーション能力の向上を目指すとか、あるいは逆に外国の方がいらっしゃるわけですから、日本の伝統文化というのをしっかりと子どもたちが理解をしておくということも必要だということもうたわれていて、まさに、今、もう既に品川区の学校の中で行われていると思いますけれども、オリンピックを視野に置いた教育というのも、ぜひ進めていただきたいと思ひます。

オリンピック・パラリンピック教育について特にご発言は、教育委員会のほうからはいかがでしょうか。

○指導課長

それでは、続きまして、オリンピック・パラリンピック教育につきまして、ご説明させていただいてよろしいでしょうか。

○濱野区長

お願いします。

○指導課長

資料の2をごらんください。「わ！しながわ オリンピック・パラリンピック教育「ようい、ドン！」」であります。2020年に第32回オリンピック競技大会東京2020、パラリンピック競技大会が開催されます。既に全ての公立学校、幼稚園が、東京2020オリンピック・パラリンピック教育実施校、愛称としては「ようい、ドン！」スクールというふうになっておりますけれども、オリンピック・パラリンピック教育が行われているところです。

実は、1964年、昭和39年の東京オリンピック、このときにオリンピック教育が世界で初めて日本で行われました。それまでは、オリンピック教育という言葉も、そして内容もなかったんですけれども、それを引き継いで、今回、またそれを新たにオリンピック・パラリンピック教育「ようい、ドン！」ということで、本区においても行ってきているところです。

この資料の一番上、本区のオリンピック・パラリンピック教育の目標でありますけれども、先ほど来、出てきた内容と重なるところと思いますが、1つ目、思いやる心やおもてなしの心を育み、友達や他者を大切にすることを育てる、2つ目として、運動やスポーツに親しみ、心身ともに健全な人を育てる、3つ目として、日本の伝統文化を誇りとし、国際社会で活躍できる人を育てるとなっております。

特にそうしたオリンピック・パラリンピック教育の中で重点的に育てる5つの資質としまして、おもてなし、スポーツ志向、国際的な視野、障害者理解、和の心というふうに考えております。それをどのようにというところではありますが、4つのテーマ、オリンピック・パラリンピックの精神、スポーツ、文化、環境と4つのアクション、学ぶ、観る、する、支えるを掛け合わせることで行っていくこととしております。

左側になります。本区におきましては、もう既に各教科等における年間35時間程度のオリンピック・パラリンピック学習を今年度、行ってきております。主に市民科を中心にやってきておりますけれども、例えば一番上にオリンピック・パラリンピックの精神や歴史について都の学習読本で学ぶとありますけれども、やはり努力や困難に負けずに継続的に頑張っていくことのすばらしさといったこと、フェアプレイといったこと、そして、やはり友情、信頼、そういったことについて学ぶ学習を行っております。

2番目の「伊藤小オリンピック～マットメダルを集めよう」でございますけれども、これは伊藤小学校で体育の時間に行っているんですけれども、実際にマット運動を行うときに、進んでさまざまな動きに取り組めるよう、できるだけポイントを身につけられるようにということで、頑張ってそれを達成した子

どもはメダルをもらえるというような、そういった取り組みを行っています。

上から4つ目でありませけれども、都立大森高校にJET青年が来ておりますので、アメリカからの留学生なんですけれども、剣道や書道体験を一緒に行ったり、またフットボールについて教えていただいたりということをしています。また、伝統文化であったり、下から3つ目にありますが、鮫浜小学校では、区立図書館から司書の方に来ていただいて、オリンピックにちなんだブックトークを行って、それと同時に関連読書ということで、子どもたちがそれぞれオリンピック・パラリンピックにかかわる本を読み、紹介するという取り組みを行っています。

左下にありますけれども、各学校では、オリンピック・パラリンピック講座を設置しております、左下にありますのは、京陽小学校で児童・生徒が作品を張ったり、また日野学園ではオリンピック・パラリンピック関連の書籍を掲示したりということを行っています。

本区の大きな特徴でありますけれども、ブラインドサッカー、ホッケー、ビーチバレーボール、本区の応援競技であったり、競技会場がある競技体験教室、これを行ってきているところです。

そして、そのまま右側に行きますけれども、世界ともだちプロジェクトにつきましては、全ての学校、そして幼稚園におきまして、それぞれ学習交流国ということで決められた5カ国についての調べ学習を行ったり、また留学生や大使館との交流を行ったりしています。

例えば浜川小では、ギリシャ大使館から大使館の方に来ていただいて、実際にギリシャ語を教えていただいたり、またギリシャのお金ですとか、オリンピックで使う月桂冠の冠ですとか、そういったものを見せていただいたり、また子どもたちの合奏を披露したりということをしております。

また、第二延山小学校はフランス大使館から来てもらっているんですけれども、フランス国旗の意味、それと同時に日本の国旗にはどのような意味があるのか、フランスの方に紹介したりというように、学んで交流するということを行っています。

イギリスの学校との交流ということにつきましてもここで示しましたが、ビデオレターを送ったり、各校の取り組みをイギリスの学校に紹介したりというようなことを行っています。時差があるため、実際、直接交流というところまでなかなかいかないところがありますけれども、そういった取り組みを行っているところです。

下に行きますけれども、真ん中になりますが、ボランティアということで、東京ユースボランティア、鮫浜小学校は、花海道でナノハナの種まきを行って、マラソンを行っていく。また、荏原六中では、ブラインドサッカー東日本リーグでボールパーソンということで、実際にボランティア活動を行っています。

また、スマイルプロジェクトとありますけれども、共生社会の実現ということで、車椅子バスケットの体験や、高齢者施設との七夕交流会といったことも行っています。

また、ここでは都の事例を挙げましたけれども、夢・未来プロジェクトということで、都からのオリンピック、パラリンピックの派遣がありますが、本区におきましても、さまざまなアスリートに来ていただいて、それぞれ子どもたちが交流する機会をとっております。

最後になりましたけれども、真ん中より若干左寄りになりますけれども、区独自教材の作成ということで、東京都も読本を作成していますけれども、品川区と1964東京オリンピックのかかわり、それから東京2020大会の、先ほどお話ししたブラインドサッカー、ホッケー、ビーチバレーボールの応援競技についての記事、そしてクールジャパンということで、品川の宿場まつりですとか、また屋形船の様子、そして大崎付近の新しい町並み、そういったことを含めて紹介しているところです。

そういった観点で、次年度もオリンピック・パラリンピック教育を一層進めていくところでありますけれども、またご意見を頂戴しながら、次年度、より一層進んだ、そして効果のある、子どもたちにとって意味のあるオリンピック・パラリンピック教育を行っていきたいと思いますので、ぜひご意見をいただければと思います。

よろしく願いいたします。

○濱野区長

ありがとうございました。

オリンピック教育について説明がありました。これについて、ご意見伺いたいと思いますので、お願いいたします。

○菅谷委員長

1964年の東京オリンピックのときの体験、経験を持っているものですから、オリンピックというのはかけがえのない機会だな、そこに自分がいたということは、自分の人生の中でいいものなんだなど。特に、高校生でしたから、同級生がオリンピックの（聖火）リレーの一番最後から2番目で走ったものです。国立競技場のちょっと手前、彼は同級生で、いわゆるマラソンで東京都で2位、そういうすばらしい記録を持っていた。それから、勉強もできるのでいいところへ行っただ。そういうような仲間を見ていると、オリンピックというのはただのお祭りじゃなくて、まさに一人一人の人間を育てていく非常に貴重な場面だと思うんです。

今、教育委員会のほうで、これほどいろいろなことを考えてくれてやっているなという感じはいつもするんですけども、大事なところは、一瞬の競技でも、その前後の中で多くの人がかかわっているということが、本当に一番大事なんじゃないかと。1964年と今回の違う点は、やはり準備にしても、何にしても、子どもは教育という意味合いでもっと力を入れられるな、そこにいる子どもたちが、生涯、自分はオリンピックを見たよ、オリンピックのためにこんなことをしたんだよというものは残ると思うんです。そのことは、教育の中では一番大きな重みじゃないかなと思うんです。

何ができたとか、何じゃなくて、そこにいたこと、そのあかしになるという

ことは、やはり教育の一番の根底じゃないかなと思うんですね。そういうことで、いろいろなことをやって、そのことを契機にして自分の将来が、ある程度、自分の意思で持てる、そういう機会になれば一番うれしいなというふうに思っています。そのときだけ喜んでガンガンやるという発想ではなくて、やっていきたいなというふうにいつも思っている。

○濱野区長

ありがとうございました。

ほかにはいかがでしょうか。どうぞお願いします。

○富尾委員

オリンピック・パラリンピックに実際に出場されたオリンピックやパラリンピアンの方々の生き方とか考え方、そしてその姿を実際に見たり、そのお話を伺ったり、一緒に体験してみたりということで、きっと子どもたちにとっても勇気を与え、いろいろな視野を広げてくれる。いろいろな困難を乗り越えて、やはりそういった方々は出場されているわけなので、それでもなお頑張るというようなことが、きっと子どもたちにいい影響を与えてくれるんじゃないかなと思います。

○濱野区長

ありがとうございます。

どうぞお願いします。

○中島教育長

今の富尾委員のお話に関しては、多分、この中で区長さんが一番オリンピックとかパラリンピアンとかかわっていらっしゃるんじゃないかなと思います。この1年でも随分たくさんの方とお会いになられたと思います。大人が感じるのと子どもたちが感じるのとはまた違うと考えますが、1年を総括してみて、この人とこんな話をしたのがすごく記憶に残っているみたいな例はありますか。

○濱野区長

本当にオリンピックとも大分お話しさせていただきましたけれども、やはり共通して感じるのは、諦めない人たちだなという感じがありました。というのは、たまたまお会いした選手の方々は、決していい成績を残せるような種目じゃないんです。だけど、やはりこの種目にかけて今まで練習してきたことを精いっぱいその場で出すんだということのうれしさみたいなものがこっちにあふれてくるような、そういう感じがしました。ですから、勝つ、負けるというよりも、自分たちがやってきたことの集大成がこのオリンピックなんだ、そこで自分を発露するんだ、そういう意気込みというのかな、そういうもののすばらしさというのを感じました。

だから、今度の2020のオリンピック・パラリンピックに出る人、みんながそういう思いでここに集結してくると思うので、我々としてこのオリンピック教育の中で、もちろん学校の中で英語を勉強したり、日本の文化を勉強したりするのもあれなんだけれども、やはりテレビでもいいから、オリンピックの競技を一生懸命、見るということ、ぜひ学校の先生が子どもたちに勧めて

ほしいです。選手の意気込みとか、テレビでは熱さなんていうものはなかなか伝わりにくいものだけでも、必ず伝わってくると思うので、オリンピックの熱い思いみたいなものを子どもたちが受け取れるような、そういう後押しをしていただきたいというふうに思います。

○中島教育長

済みません、急に。

○濱野区長

ほかにありますか。お願いします。

○鈴木委員長職務代理者

1964年のころは、ちょうど私も高校、たしか2年生だったかと思えますけれども、私は競技場に水球を見に行っただけなんですけれども、ただ、残念なことに、日本人の戦っている姿でもなく、外人同士の、名前もわからないような感じで、準備して行けばよかったんですけれども、学校から行くよと言って連れていかれたという感じがあったのです。

それと引き換え、私の友達で聖火ランナーの伴走をした人がいて、つい最近、当時のことを聞いたら、もう昨日のことのよう生き生きと当時はこうでああという話をしてくれたんですけれども、もう彼にとっては一生の財産、宝物というのが目に見えてわかるような応答ぶりなので、ぜひこういうチャンスが、一生の中での宝物だと言えるぐらい、皆さんが主体的にかかわって、ただ行くから行こうよじゃなくて、主体的にかかわってオリンピックを迎えると、本当にすばらしいものが得られるんじゃないか、そう思っています。

○濱野区長

ありがとうございます。

せっかく東京で開かれて、東京、品川の子どもたちが競技を、そばにいるわけですので、ぜひ実際の競技を見てほしいですね。学校では、今、お話のように、オリンピックの競技を観戦に連れていくということになるんでしょう。お願いします。

○中島教育長

おそらくまだそこまで具体化はしていないんですが、まずは区内の競技なりを区の子どもたちには見てもらいたいと思いますし、またほかの種目も。そういったチャンスはあるんじゃないかなと思います。

○濱野区長

いいですね。私は鈴木先生と同じ高校2年だったんですけれども、神奈川県に住んでいましたから、一生懸命、行こうとすれば見れたのかもしれないけれども、結局、前のオリンピックはテレビで見ただけで、ブラウン管の中のオリンピックだったんですね。ここは品川ですから、子どもたちがすぐに見に行けるわけだし、区内でも競技が行われるわけなので、ぜひ、生のと言うと変だけれども、ブラウン管の中じゃないオリンピック、直に見てもらいたいと思います。

ほかにいかがでしょうか。お願いします。

○海沼委員

今の教育目標の中にもおもてなしとありますね。今、環境美化ということが一番大事ですよ。今、子どもたちも町内清掃をやったり、学校でも清掃をやっていると思うんですけども、それがやはりみんな、そのおもてなしにつながっていくのかなと思っていることと、あとは子どもたち一人一人が環境美化に取り組んでいただけることが一番いいのかなと、今思っているところです。

○濱野区長

ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。お願いします。

○中島教育長

学校での取り組みは、こういったような、先ほどの資料にあったようなことが、大体、骨格として組まれて取り組んでいくんですけども、オリンピック・パラリンピックというのは、さまざまな文化活動と一体となって初めて成果があるんだとよく言われます。スポーツはスポーツとして、それとのかかわりの中で、今、区内でも多くの文化芸術活動が開催されている状況があります。役所がやっているのもあれば、地域の方々が率先して取り組んでいるものもあり、各地で行われている祭り自体がそういった活動だと言ってもいいのかもしれない。そういうところに子どもたちが参加することによって、スポーツと文化のマリアージュということを実現させていくことが必要です。

校長連絡会の中でも、オリンピック・パラリンピックはもうスポーツ文化だけではなく、さまざまな芸術活動や本当にボランティア活動、そういったようなものが集大成となってレガシーになっていくんですよという話もさせていただいたんですが、そういった視点をぜひ学校でももってもらいたいと思います。また中学生であれば、多分、わかると思いますが、1964年の東京オリンピックの前の幻のオリンピックがありましたね。日中戦争が厳しくなってしまっていて実現できなかった。その幻の東京オリンピックは、実は関東大震災からの復興オリンピックでした。

1964年のオリンピックは、戦争で焼け野原になった東京の復興であり、今回のオリンピックは、東日本大震災や熊本地震といった苦しい状況からの復興だと言われておりますので、そういった考え方をハードだけではなくてソフトの面でも、心の部分でも中学生の子どもたちには理解させていきたいと考えています。そのためには、私たち教えるサイドの人間が、まずは共通認識をもっていかななくてはならないのかもしれないと思います。そんな風に思います。

○濱野区長

ほかにいかがでしょうか。よろしいですか。

1964年のオリンピックは私にとってもあれだったんですけども、印象に残っているのは、一つ、オリンピックのファンファーレなんです。あれは長野県の学校の先生が作曲したんですね。あのファンファーレというのは、今、おっしゃったように、日本の復興宣言みたいな、爽やかに力強いファンファーレでございます。

今度のオリンピックというのも、やはり日本がいろいろなところで、各地で受けているダメージを跳ね返していくんだというメッセージにかわればいいなというふうに思いますし、子どもたちにとっても、いろいろな、さみしげということはないんだけど、惨めだとか、あるいは鬱屈した気持ちだとか、そういうものが、このオリンピックを通してそんなものに負けないんだというような力の伝播というか、力が伝わっていくような、そういうオリンピックになれば素晴らしいなと思いますし、この中でもそういうものを子どもたちが受け取るような心に指導していただければと思います。お願いしたいと思います。

ほかに先生方、何かありますでしょうか。よろしゅうございますか。

それでは、今日の主な議題についてはこれで終了となりますけれども、全体を通しまして、何かご意見等ございましたらお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。よろしゅうございますか。

○総務部長

報告事項があります。

○濱野区長

お願いします。

○学校計画担当課長

では、私から報告事項でございますけれども、学事制度審議会について、ご報告をさせていただきます。

資料につきましては、資料3としまして、諮問文の写しをおつけしてございます。学事制度審議会につきましては、就学人口の増加ですとか義務教育学校の法制化など、学校を取り巻く環境が大きく変化しているのと。

○濱野区長

マイク、ちょっと離してくれる？

○学校計画担当課長

また、前回の審議会の答申から8年が経過しているということもございまして、この10月から改めて審議会を立ち上げまして議論を進めているところでございます。

審議会に対する諮問内容については、お手元にお配りしました諮問文のとおりでございますけれども、下の部分です、審議事項にございまして、1としまして、義務教育9年間の一貫教育を一層推進していく上で望ましい学区域、学校選択制、学校規模及び学校種、地域バランスのあり方等について行っております。また、2としまして、1番目の内容を踏まえまして学校改築の考え方について、また3としまして、この1番、2番を実現するための方策についてとなっております。

次に、これまでの審議状況でございますけれども、10月27日に第1回の審議会を開催しまして、教育長から諮問の後、それぞれの委員の方々から、これから審議を始めるに当たっての抱負などのご発言をいただきました。

第2回は12月1日に行われまして、学校の適正規模についてご議論をいただき、次回の審議会で一定の考え方をまとめることとなりました。その後、審

議の参考とするために、区民対象に行われるアンケートに関し、そちらの内容について議論を行ったところでございます。

第3回目は本日の午前中に行われました。初めに前回からの引き続きの検討事項でございます学校の適正規模について協議を行いました。ほかの検討課題と密接にさまざま関連することでもございますために、中間答申の際に、全体の調整をしながらまとめていくことといたしました。

そののち、次の検討項目であります学区域に関し、現状の課題等を説明させていただきまして、議論に入ったところでございます。この課題につきましては、次回以降も審議を続けてまいります。

なお、今後のスケジュールでございますが、審議会につきましては、月1回程度を目途に開催をしまして検討を進めてまいりまして、来年の夏ごろを目途に中間答申をいただき、パブリックコメントにかけた後に来年度末、平成30年の3月までに最終答申をいただく予定です。

私からの説明は以上でございます。

○濱野区長

ありがとうございました。

学事制度審議会について説明がありました。これについてご意見がありましたら、お願いいたします。よろしゅうございますか。まだ途中経過ということですので、今後、またしっかり議論をしていただいて、一定のときにご報告をいただきたいと思っております。

議論の際に、地域とのかかわりというのがこれからの学校を語る場合に欠かせない項目だと思っておりますので、地域とのかかわりについても、十分、配慮した議論をお願いをしたいと思います。よろしくお願ひします。

ほかに教育委員会からの協議、あるいは報告事項がありましたらお願いしませんですか。

ありませんでしたら、(2)のその他について、事務局から説明願ひします。

○総務課長

本日はどうもありがとうございます。次回のこの会議の開催予定ですけれども、来年度の6月ごろを開催予定してございますので、お忙しいとは思いますが、どうぞよろしくお願ひいたします。

以上でございます。

○濱野区長

そのほかに何か連絡あるいは報告がございますか。よろしいですか。

それでは、ないようでしたら、本日の議題の議事を終了させていただきます。どうもありがとうございました。

— 了 —